

人が集まれば、おもしろいことが起こる！ チャレンジできる街・桑名

昨年8月、桑名市と「挑戦を応援できるまちづくり」に関する連携協定を締結した株式会社 On-Co。On-Coが運営する「さかさま不動産」は、夢のある若者や起業を考える人にとって魅力的な仕組みです。

どんなものなのか、取材しました。

問 この記事については秘書広報課(☎24-1492 FAX 24-1119)



- 02 年頭のあいさつ
- 04 キラリ★くわな人
- 05 **特集** 人が集まれば、おもしろいことが起こる！
チャレンジできる街・桑名
- 10 市議会議員が決まりました
- 12 子育て広場
図書館・六華苑・博物館
- 14 メディカルニュース
くわな防災教室
- 15 かんたん旬レシピ
みんなの掲示板
- 16 EVENT ALBUM(イベントアルバム)

- 18 くわなINFO
- 24 無料相談
- 25 第7回桑名市市政功労表彰
市長まちなか探索
- 26 HAPPY BIRTHDAY
桑名のイトコ教えてください。

今月の表紙

桑名で夢に挑戦したい皆さんが大集合。やりたいことはさまざまですが、何かに挑戦しようという熱い気持ちを持つ人たち同士、会話が弾んでいました。



11月13日に大山田コミュニティプラザで開催された第4回桑名子ども英語コンテスト。このコンテストでは1チーム3分以内で桑名の魅力や自慢を英語で発表します。

中村さん、外園さん、牧野さんは「Girls Talk(ガールズトーク)」という発表で中学生部門において市長賞を受賞されました。発表はチャイムの音とともにスタート。好きな人についてガールズトークが始まり、桑名の著名人が紹介されていきます。

8月ごろから台本を作成し、



明正中学校2年生
中村 ひとみさん(左)
外園 なつきさん(中央)
牧野 珠々さん(右)

将来の夢や、英語を活用してやってみたいことを伺うと、中村さん、牧野さんは外国に行っていたくさんの人とコミュニケーションをとりたいと話してくれました。外園さんは、保育士になるのが夢で、外国から日本に来て、日本語を話せない子どもやその家族の力になりたいと話してくれました。明るく、元気で才能豊かな3人の未来が楽しみです。



キラリ★くわな人

準備をしてきたとのこと。休み時間や放課後に練習を積み重ねてきました。いすに座っているシーンが多いため、ジェスチャーを大きくすることを心がけたそうです。

チャレンジしたい人を応援する

「さかさま不動産」とは？



On-Co代表
たけふみ
水谷 岳史さん

「やりたい思い」を発信することがスタート！
これまでにない不動産活用の仕組み



貸し手

じゃあここ貸します

これがやりたい！



借り手

桑名市を拠点にOn-Coが全国展開しているサービス「さかさま不動産」は、一般的な不動産賃貸の仕組みとは少し違います。空き家で何らかの挑戦をしたいと考えている人がその思いをウェブ上で発信し、それを見た不動産オーナーが「この人に物件を貸したい」と問い合わせをする、逆転の不動産サービス。オーナーは物件情報を公表せずとも貸し手を選ぶことができます。無料で利用できるため、「夢を叶えたいけどその場所がない」と考えている人にとっては、物件を見つけるチャンスが増えるというわけです。借り方は不動産賃貸の他に場所をシェアする方法も。挑戦を応援するだけでなく、移住定住の促進や潜在的な空き家の発掘にもつながるとい側面もあります。

On-Co代表の水谷岳史さんは「さかさま不動産の取り組みは単なる不動産の貸し借り以上の意味がある」と話します。「今まで全国でマッチングした数は14軒。残留物がある、修繕が必要など、市場には流通していない物件も多いです。いずれも『貸す人は選びたい』オーナーさんが借りたい人の思いに共感し、物件を貸し出しました。貸し手には『夢を持つ人を応援する』という意味が生まれ、借り手は『夢を応援してくれた人や街へ恩返ししたい』という思いを持つようになります。」



さかさま不動産TOP
<https://sakasama-fudosan.com/>



On-Coが現在作っている、まだないものに向き合う人の拠点「madanasaso」の改装を手がける水谷さん。



8/29に行われた協定締結式の様子。「何かをやりたい」という人にとって、桑名市がチャレンジしやすい街をめざします。

やりたい思いが心を動かす

全国の物件活用事例

暮らしに必要なまちの本屋に

築70年の古民家が、多種多様なコミュニティが生まれるまちの本屋さんへと生まれ変わりました。貸し手と借り手がコミュニケーションをとるなかで「まちを元気にしたい」という思いが合致し「いつか本屋を開きたい」という借り手の夢が実現。物件オーナーさんは「自分が子どもの頃から好きだったこともあり、ここが本屋さんになるんだと思うとワクワクしました」と話します。書店営業のほか、文化の発信拠点としても活用されています。



元は時計屋だった物件。写真右はTOUTEN BOOKSTOREの店主 古賀さん。

地域に新しい文化と事業が誕生

オーナーさんは地域文化に関わる活動しようとして物件を入手したものの、なかなか手が回らず、空き家になっていった2階建ての物件。「もしも誰かに貸すなら地域と接点を持てるおもしろい事業者に貸したい」と考えていたそうです。そんな中、オーダーメイド自転車と地域文化を掛け合わせ、ライフスタイルの提案を行っている貸し手と知り合い、その思いに深く共感。観光コンテンツとして、レンタルサイクルの計画も進んでいるそうです。



もともとファンが多かった、借り手であるFUN SETO GINZA店主・ダビッドさん。

夢のある物件の使い方に賛同

相続により受け継いだものの、10年ほど空き家だったという築約70年の物件は、オーナーさんが遠方在住だったこともあり、借主を積極的に探していませんでした。ただ、「さびれつつある地域が明るい街並みに変わるような、健全で文化的な活用であれば貸したい」と考えていたそうです。そんな時に行政とさかさま不動産、地域の人たちなどと関係構築が進み、紅茶専門店を開きたいと考えていた借り手とのマッチングが成立しました。



シンボリックな黄色の外観を生かしながら紅茶専門カフェTeapickをオープン。

やばいアートなコイン
ランドリーを作りたい

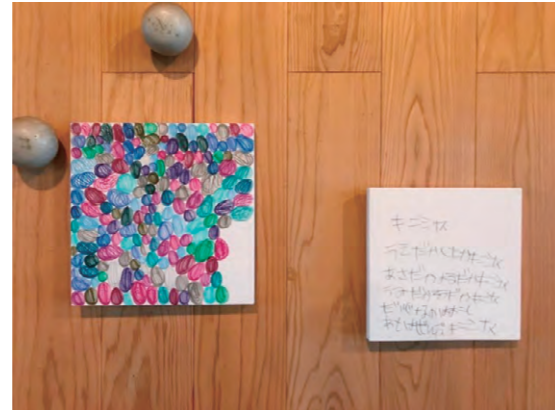
看護師経験のある金子さんは、アート作品の展示をメインに、福祉や医療がもっと身近でおもしろくなるような「やばいコインランドリー」を作りたいと構想中。インスタレーションのような作品展示のほか、作品購入の場やコミュニティナーズの拠点など、「何が起るかわからない」場所づくりをめざしています。



現在はいなべ市で廃校を利用した筆談カフェ「桐林館喫茶室」を運営。障害者の表現活動をサポートしています。



アールブリュットをツールとして、アートや筆談、手話を暮らしの中から広げていきたいと金子さんは話します。



金子 文絵さん

桑名市出身。福祉や医療現場と社会の乖離を何とかしたいと、kinariを立ち上げ。



桑名でチャレンジしたい人、増えています。
やりたい思い、聞いてください!



「この人を応援したい!」と思った物件オーナーさんや、その他の「やりたい思い」を見たい人はこちらから各地区市民センターにも、「やりたい思い」を載せたチラシを掲示しています。ぜひご覧ください。



森 輝さん

桑名市出身・在住。「合同会社ファンプラス もり社会福祉士事務所」代表。



「楽しいを、もっと。笑顔を、ずっと。」という理念で合同会社ファンプラスを運営しています。



不登校や生活困窮など、周りに相談することができず悩みを抱え込んでしまうことで問題が深刻化しているといいます。

地域で世代を超えて
集まれる拠点を作りたい

子どもが宿題や遊びができたり、年配の人が散歩で立ち寄り、ビジネスマンが仕事をできたり…さまざまな人が自由に使えるフリースペースを作りたい森さん。他人との距離感が遠くなってしまった現代で、世代を超えて集まれる拠点を作り、今の社会の持つ問題を解決する糸口にしたいと考えています。

世界最大級ゴングを
設置したい!

2024年春に世界最大級の直径200cm以上のゴングが到着予定という水谷さん。ゴングの音(振動・周波数)には癒やしの効果があると言われ、音響療法の分野からも注目されています。水谷さんは自身でもその効果を実感しており、多度地区で巨大ゴングの演奏と研究ができる場所を作りたいと考えています。



ゴングの音を体感した人たちからは、体調不良の好転や思考状態の明瞭化などの意見が寄せられているそうです。



水谷さんは現在、直径152cmのウルトラゴングを主体に、ミドルゴングを加えた計5~6枚の演奏方法を模索しています。



水谷 翔さん

桑名市出身、長野市在住。日本初の直径152cm巨大ゴングを個人所有しています。



あばあちゃん向け
Fukumochi vintageを作りたい

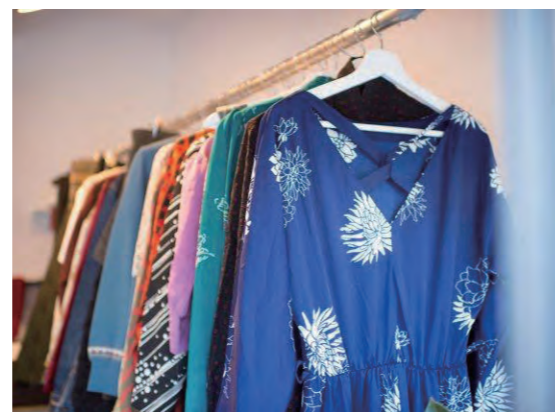
現在、西矢田町で古着屋「Fukumochi vintage」を運営している生駒さんは、あばあちゃん向けの別店舗を作りたいと思案中です。Fukumochi vintageは年間3000円でお店にある服を何度でもレンタルできる仕組み。現在の店舗は若い人向けの洋服をセレクトしていますが、高齢者向けの商品ラインナップのお店を作りたいと考えています。



現在の店舗は「福餅」というお餅屋さんだったそう。お店を営んでいた坂本さんと。



売って終わりではなく、レンタルだからお客さんがお店に何度も足を運ぶため、にぎわいが生まれます。



生駒 郁代さん

桑名市在住。「自分の住む街を自分でおもしろくしたい」と2018年にFukumochi vintageをオープン。



河合 佐好子さん

津市在住。津市、桑名市、インドネシア・バリ島でローフード講師として活動。



究極の自然食を
桑名で広めたい

日本でも少しずつ認知度が上がっているローフード。スムージーや生絞りジュースの健康プログラムやローフードのレシピを学べる講座運営も計画中。



ローフードのメッカと言われるインドネシアのバリ島で、世界中から受講生が訪れるローフードアカデミーの講師としても活動していました。

「生の食べ物」という意味を持つローフードをカフェで提供したり、ローフードのレシピを学べる講座を開いたりしたいという河合さんは、「ローフードStudioトキハナテ」の主宰者でもあります。持病をローフードで改善させたことがきっかけで、ローフードの教室を始めた河合さんの拠点となる場所を募集しています。